

A—34 味噌汁中の食塩濃度，全窒素量および糖量に関する家系間の比較

II 家系内分散に対する家系間分散の比率について（春）

会津短大 ○後藤 信男
飯塚 宣子
高橋 衛
佐原 昊

1. 測定された味噌汁中の食塩濃度，全窒素量，糖量の数値の分布は，各家の伝承的（各個人の遺伝的要因，家風など）な違いによるものと各家が含まれている環境（地域，職業，季節，日日など）の違いによるものとの2の要因から成立っていると考えることができる。そして，もし前者が大きければ血縁関係の近い各家の間の数値の値は少なく遠い家ほど差が大きいはずである。逆に後者が大きければ，血縁関係のある家の間の数値の差は大きく血縁関係のない家の間の差は小さいはずである。これは統計的には家系間の分散が家系内の分散に比べてどの位大きいかということによって表わされる。

前報Iでのべたように，味噌汁中の食塩濃度と糖量については家系間の差がみられ，味噌汁のからさ，甘さが伝承的な要因に負うところが大きいことが示唆されたので，以上のような見地に立ってさらに検討されなければならない。

2. 調査家庭，調査期日および測定法は前報に同じである。

3. その結果，家系内分散に対する家系間の分散の比が有意であったものは食塩濃度と糖量であり，味噌汁中のこれらの成分は家計間の差（主として伝承的なもの）に基づく要因が家系内の変異（主として環境的なもの）に基づく要因に比べて大きな意味をもつと判断された。これに反して全窒素量はこの比率は有意ではなかった。